

R5年4月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
4月3日	4月12日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに浮遊物多量 検尿 亜硝酸(±) 尿蛋白(+) 潜血(±) 白血球(2+) 体温36.4℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 7日間投与 オーグメンチン(250)3錠 3×1 尿汚染持続につき同抗生剤3日間追加 投与。浮遊物減少にて経過観察へ
4月3日	4月8日	6日	肺炎	4/1から発熱。4/2、38℃代 解熱剤投与。4/3、37.5℃前後で経過。 検尿：亜硝酸(1+)、蛋白(1+)、白血球(1+)。抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 熱発持続につき 4/4、BX-P施行 左下葉胸水貯留、右、中、下葉に肺炎像所見あり。抗生剤変更3日間投与 オーグメンチン(250)3錠3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
4月3日	4月8日	5日	尿路感染症	頻尿の訴えあり。4回/時間。 検尿：亜硝酸(1+)、蛋白(1+)、白血球(1+)。 Dr診察にて尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 経過観察へ
4月3日	4月6日	3日	尿路感染症	4/3、37.8℃。 検尿：亜硝酸(-)、蛋白(1+)、白血球(1+)。 Dr診察にて尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 経過観察へ
4月12日	4月14日	3日	尿路感染症	4/12 KT38.0℃ 検尿：亜硝酸(-)、蛋白(-)、白血球(-)。 Dr診察にて尿路感染症の診断。 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
4月17日	4月19日	3日	尿路感染症	4/12 KT39.0℃ 検尿：亜硝酸(2+)、蛋白(±)、白血球(2+)。 Dr診察にて尿路感染症の診断。 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
4月20日	4月23日	3日	尿路感染症	排尿時痛と頻尿の愁訴 検尿：亜硝酸(1+) 潜血(1+) 白血球(2+) Dr診察にて尿路感染症の診断。 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
4月24日	4月26日	3日	尿路感染症	KT39.6℃ 悪寒、下痢便、嘔吐あり 検尿；亜硝酸(-) 蛋白(1+) 白血球(1+) Dr診察にて尿路感染症の診断。 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
4月26日	5月1日	5日	尿路感染症	頻尿が続く。検尿：亜硝酸(1+) 蛋白(1+) 糖(3+) 潜血(1+) 白血球(2+) Dr診察にて尿路感染症の診断。 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
4月27日	4月30日	4日	尿路感染症	排尿時痛あり。 検尿：亜硝酸(-) 蛋白(±) 潜血(±) 白血球(2+) Dr診察にて尿路感染症の診断。 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ

R5年5月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
5月3日	5月12日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに浮遊物多量 検尿 亜硝酸(±) 尿蛋白(+) 潜血(±) 白血球(2+) 体温36.4℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 5日間投与 オグメンチン(250)3錠 3×1 浮遊物減少にて経過観察へ
5月17日	5月23日	7日	尿路感染症	KT36.0℃ ペニス先端発赤・排尿痛あり 検尿 亜硝酸(2+) 蛋白(2+) 白血球(3+) 潜血(3+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤7日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用対応 経過観察へ
5月26日	5月30日	5日	尿路感染症	KT37.9℃ 検尿 亜硝酸(2+) 蛋白(2+) 白血球(3+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤5日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用対応 経過観察へ
5月10日	5月16日	7日	尿路感染症	5/10 KT38.9℃ 解熱剤投与 5/11検尿 亜硝酸(2+) 蛋白(1+) 潜血(1+) 白血球(1+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤7日間投与 ノルフロキサシン(100)3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
5月19日	5月23日	5日	尿路感染症	下腹部違和感、排尿時痛あり 検尿：亜硝酸(-)蛋白(±)白血球(±) 潜血(-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシン(100)3×1 経過観察へ

R5年6月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
6月10日	6月19日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに浮遊物多量、白濁あり。 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (2+) 潜血 (3+) 白血球 (3+) 体温36.4℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 10日間投与 ノルフロキサシン (100) 3錠 3×1 浮遊物減少にて経過観察へ
6月19日	6月21日	3日	尿路感染症	頻尿時痛の訴えあり。 検尿：亜硝酸 (2+)、蛋白 (+)、 白血球 (2+)、潜血 (2+)。 Dr診察にて尿路感染症の診断 抗生剤 3日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 経過観察へ
6月24日	6月29日	6日	尿路感染症	KT38.4℃ 検尿：亜硝酸 (2+) 蛋白 (2+) 潜血 (-) 白血球 (-) Dr診察にて尿路感染症の診断 抗生剤6日間投与 Rp)ノルフロキサシン (100) 6T 3×1 熱発時アセトアミノフェン(0.4) 頓用経過観察へ
6月28日	6月30日	3日	尿路感染症	6/27排尿時痛の訴え 6/28日検尿 亜硝酸 (-)、蛋白 (2+)、潜血赤血球 (2+)、白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン (100) 3×1 経過観察へ

R5年7月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
7/15	7月24日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに浮遊物多量、白濁あり。 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (2+) PH(7) 潜血 (3+) 白血球 (3+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 10日間投与 ノルフロキサシン (100) 3錠 3×1 浮遊物減少にて経過観察へ
7/20	7月24日	5日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 検尿 亜硝酸(±) 蛋白 (±) 白血球 (+) ケトン(+) 糖(3+) PH(8) 潜血 (±) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤5日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用対応 経過観察へ
7月24日	7月30日	7日	带状疱疹	右腹部～右腰部に疼痛を伴う発疹 (+) Dr診察 带状疱疹の診断 抗ウイルス剤内服7日間投与 アシクロビル (400) 2錠 2×1 局所に外用ビダラビン軟膏塗布 経過観察へ
7月19日	7月25日	7日	带状疱疹	左腋窩から上腕内側、背部全体に 発疹、水疱形成あり。疼痛(-) Dr診察にて带状疱疹の診断 抗ウイルス剤投与と軟膏塗布の指示 Rp)アシクロビル(400)2T 2×1 3日間 外)ビダラビン軟膏塗布
7月13日	7月22日	10日	肺炎	7/13KT39.0℃。痰がらみの咳嗽Dr診察 肺炎の診断 抗生剤 (β内酰胺系) 7日間投与 オーグメンチン (250) 3T 3×1 内服変更(マクロライド系)3日間投与 クラリスロマイシン(200)2T 2×1 7/19胸部レントゲン施行 左肺野全体に白い影認む コロナ抗原キット陰性 経過観察へ
7月18日	7月22日	5日	尿路感染症	KT38.0℃ 検尿：亜硝酸 (-) 蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球 (+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 5日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 発熱時頓用アセトアミノフェン(0,4) コロナ抗原キット陰性 経過観察へ
7月19日	7月23日	5日	尿路感染症	KT39.3℃ 検尿：亜硝酸 (-)、蛋白 (+)、 白血球 (2+) 抗生剤 5日間投与 オーグメンチン(250)3錠3×1 発熱時頓用アセトアミノフェン(0,4) コロナ抗原キット陰性 経過観察へ
7月21日	7月30日	10日	尿路感染症	KT39.7℃ 検尿：亜硝酸 (2+) 蛋白 (2+) 潜血 (+) 白血球 (3+) Dr診察にて尿路感染症の診断 抗生剤10日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 発熱時頓用アセトアミノフェン(0,4) コロナ抗原キット陰性 経過観察へ
7月21日	7月25日	5日	尿路感染症	KT38.1℃ 検尿：亜硝酸 (-) 蛋白 (+) 潜血 (+) 白血球 (#) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 5日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 発熱時頓用アセトアミノフェン(0,4) コロナ抗原キット陰性 経過観察へ

R5年8月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
8月17日	8月26日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートを浮遊物多量、白濁あり。 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (+) 潜血 (2+) 白血球 (2+) 体温 36.4℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 10日間投与 クラリスマイシン (200) 2錠 2×1 浮遊物減少にて経過観察へ
8月24日	8月28日	5日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに白濁あり。 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (+) 潜血 (±) 白血球 (2+) 体温36.4℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 5日間投与 ノルフロキサシン(100) 3錠 3×1 尿白濁減少にて経過観察へ
8月16日	8月18日	3日	尿路感染症	Rt38, 6℃ 検尿:亜硝酸 (+) 蛋白(-)糖(-) 潜血(-) 白血球(-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤・消炎剤・胃薬3日間投与 Rp) ノルフロキサシン(100)3T ロキソニン(60)3T レバミピド(100)3T /3×1 経過観察へ